

第3回藤岡市地域コミュニティ活性化に関する懇話会 概要

日時：令和3年9月21日（火）10：00 から 11：50 まで

場所：市役所中庁舎3階 大会議室

1.開会（司会：地域づくり課長）

8月25日の懇話会は新型コロナウイルス感染拡大の影響で本日に延期致しましたが、現在も緊急事態宣言下ではございますので、感染対策を万全に期して実施させていただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。また、8月の懇話会の延期を受け、新たに第5回懇話会の日程を11月10日に設定させていただきたいと思います。

もう一つ、8月23日の上毛新聞に「町内会の今」ということで1ページを使って2回特集が組まれました。内容としては、区長のなり手を探すのが大変になってきた、それぞれの町内会が活動できなくなってきたということが、2日間にわたり紙面で取り上げられていました。藤岡市と致しましてはこのような懇話会をつくりながら、その問題意識に取り組んでいきたいと思いますが、いずれにしても、それぞれの団体の活動の実態に当てはめながらその先の協働ということで藤岡市役所と地域団体等で協議していくということ、地域の事は地域で行うという時に藤岡市はどう協働・協力・支援をしていくかということも含めて今色々検討しています。そのような趣旨を踏まえまして、本日、また残りの懇話会においても各団体からご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

2.議題（議事進行：熊倉会長）

（1）先進地事例紹介について【熊倉会長から PowerPoint で説明】

熊倉会長：新型コロナウイルスがまん延する中で、なかなか地域を出向くこともできませんし、地域から来ていただく訳にもいきませんので、僭越ではございますが私の方から県内の人口5万前後の市、藤岡市に類似した富岡市、沼田市、渋川市が同じようにコミュニティ振興に力を入れておりますので、その状況を説明させていただきたいと思います。

※下記資料に基づき先進地事例の説明を行う。

- ①公民館区等を単位としたコミュニティ振興例
- ②第2次富岡市総合計画地区別計画
- ③沼田市市民構想会議提言書

まとめますと、今群馬県内の5万前後の都市においては、もう一度地区コミュニティを見直して何とか存続させていこうということで気を一にしています。どこが特に進んでいるという訳ではなく、みんながみんな試行錯誤しています。そんな中で中間目標のようなものを富岡や沼田や渋川と交流できると、より良い成果が出るのではないかと、これが最初の報告であります。あくまでも参考として見ていただき、次の意見交換に移りたいと思います。

(2) 地域コミュニティ活性化のための方策について【意見交換】

※委員の方々から事前に提出していただいた意見書をもとに、補足説明や他の委員の方への質問を行いました。

委員 A さん：自分が関わった具体的な事例について紹介する中で何かヒントになればと思い、書かせていただきました。これらのことに共通していることは、普通は「形は整いました、では誰がやりますか？」ということになるが、自分達の場合は「最初に人がいました、それが後から形を取っていった」ということだと思います。ですから、誰かやろうという人間が生まれない限りは、最終的な形をつくってもそれに関わる人間は集まらない。それはいつでも地域社会が抱えている問題ではないかと思います。ではどうするのか？ということに対する答えはないのですが、せめてそういった（やろうという）人達が出やすい地域であれば良いのではないかと思います。

熊倉会長：本当に人が重要で、それから意見書の中で「奨励・支援していく方針や仕組み」と書いてありますが、懇話会の提言書の中で強調しないといけないし、人を育成する仕組みを考えていかなければならないと思います。

委員 B さん：いかに地域を活性化していくかというところで、人同士のつながりを何とかしていかなければならないということは常日頃考えております。非常に難しいのですが、「防災」というところで市民にとって一番身近な問題を、防災訓練ということで集まってもらって一人一人がつながっていくということが必要だと思っております、防災訓練を各地域で行っていただいて、その際に消防団や地域の公民館などが中心となって行っていただくというのが必要なのかなと思い意見書に書かせていただきました。

熊倉会長：いくつかの県内の市町村で自主避難所を自分達で運営しているところも少しずつ出始めていますが、藤岡の場合はいかがですか？

委員 B さん：藤岡市の場合、自主避難所は市の担当課が行っております。

委員 C さん：今 B さんから災害等の話があり、地域がいかに頑張るかという話が出ましたが、藤岡市は幸いにして災害が少ないため、もし災害が起こった時にみんなが地域で協力して何か活動が出来るかと言うと、本当に不安を感じます。昔は行政の方で人を集めて、老人クラブから始まって青年団と知らないうちにそういう活動に入ってみんなが集まった時代があったが、今は多種多様性で個は自分で活動している状況が多いので、その間を取り持つようなものを公の方で音頭を取っていただいてみんなが集まれるような中間部分の活動をしない限り、地域の人が一緒になって活動するというのは無いのではないかと感じています。またそういう時に人間関係を築けるかどうかというのは、小さい時からそういった人間関係作りができていくことが大切なのではないかと思ひ

ます。自分が今地域で色々な活動をさせてもらっていますが、自分が地域で子ども会の活動をした時に先輩から色々なことを教わって、それを後輩に伝えてきました。中学生が小学生の面倒を見ながら活動する、そういう人間関係作りが出来ていたので、それが今基盤にあるから、自分達が色々な活動をする際にも自然と出来ている。そういう中学生を中心とした活動をしていくには、公民館等が中心となってそういう学校の子ども達が地域の中に出ていくという、今のコミュニティスクールは学校の中に地域の人が入っていくというのがほとんどなので、そうではなくいかに地域へ子どもが入っていくか、そして地域の中で子ども達が育っていく、そこで子ども達が大人の活動を見て「やっぱりああいう事が大切なんだな」ということに行き着いて、地域の中で生きていくというような、そういう事ができればいいなと思っています。

委員 D さん：市民アンケートの結果から、単身世帯や夫婦のみの世帯が増えているということで、さらにこれから人口減少が広がり団塊の世代が占める割合が増えてくる。総務省の統計で 65 歳以上が 30% 近くに増えていて、これからもっと増えていくと言うのが現状だと思います。そう言った中で、支え合い協議体が重要な役割を持ってくると感じています。それとコミュニティの希薄化についてですが、冠婚葬祭そのものが随分やり方が変わってきていて、昔は冠婚葬祭が一つの地域とのつながりであったが、今は結婚式にしてもお葬式にしても夫婦や家族だけで行ったりやらないというのが多く、地域の人が集まるということもなくコミュニティのつながりが非常に難しくなっている。今の時代は希薄化・簡略化が受け入れられていて、その方が世話が無くてもいいんじゃないか、という人が多いように思います。地域コミュニティへ気持ち良くみんなの輪の中に飛び込んできてくれる人はなかなかなくて、自分でいられればそれでいいんだと言う方が多くなっているのではないかと感じています。

それと公民館の活性化についてですが、藤岡市でミニデイサービスを社会福祉協議会が中心となって行っているかと思いますが、各地区の公民館あるいは公会堂で大体 70 か所ぐらいでやっているようです。これは 70 歳以上で予約制ということでなかなか気軽に行ってみようという訳にはいかず、お茶菓子代や保険などで 300 円かかるため、もっと気軽に誰でも利用できるような集まりにできたらいいのではないかと思います。今地域で開催していても 1 人しか参加していただけないことがあります。職員が 2 人、3 人と来ていても(利用者は)1 人しか来ないというのが現状のようです。昔は 20 人、30 人と来ていたようですが、今はそのように風前の灯で寂しくなっているとのことです。もっと気軽に地域住民が寄れるような、コーヒーでも飲んでみようか、お茶でも飲んでみようかという形で気軽に開催出来たらいいんじゃないかと思います。

また、公民館単位と書いてあるのですが、お年寄りが行くには距離があるのかな

と思いますので、地区単位の公会堂であれば身近にあるものですから歩きで歩きやすいのではないのかなと、小さい単位で活動出来ていたら良いのかなと思います。

熊倉会長：支え合い協議体やミニデイサービスについては、後で社会福祉協議会の方から補足説明をいただきたいと思います。富岡市も公民館の下にといいいますか、地区の財産である公会堂をどう使っているか、どう使っていけば良いかということが、今課題の一つとなっているようです。個も大切なと同時に、地域の中間的なつながりをどうつなげていくかと言うのがありますので、それが地域の力になっていくと思いますので、また色々と意見交換をしていければと思います。

委員 E さん：昔は家庭に入ると先輩方から婦人会に入るよう言われたものだが、今はそういう事はないのですが、だから余計地域に行かなくなっているのだと思います。そのため、一人一人が自覚を持って班の行事に参加したり、家族の人が学校の行事に参加したり、個人個人が色々なものに積極的に参加していただきたいと思います。それと藤岡市は自主防災会が 100% ということで上毛新聞に出ていたが、防災についてよく分からなかったので区長さんに聞いたところ、区長さんの元で役員 5 人が市から話があるとそれを伝えてまたそれが班長へ行くという話なのですが、私自身防災体制がどうなっているのかも全然分からなかったというのがある。藤岡市も防災公園が出来たことですし、もう少し防災に対して地区の人にこういうことがありますとか、話していただければいいなと思います。

委員 F さん：公民館に一番お世話になっている団体が文化協会で、今活動がほとんどできないという問題はあると思いますが、いずれにしても公民館と言うのは文化的な活動をしていく上で住民の生活の質に関係している部分で非常に大切であると感じているところです。それとは直接つながりが無いかもしれませんが、今回の意見書に言葉足らずではありますが書かせていただきましたので 4 点程お話をさせていただきます。

まず 1 点目は、「地域コミュニティの活性化」とはどういうことなのか？という目標を明確にした方が良いのかなと思っています。例えば地域で市や団体が連携して、課題の解決に向かって対応できるような人材の育成だとか、あるいはネットワークの構築などを進めて、自ら地域の課題を解決していく力を向上させていくといったような、こういったものを明確にしておくとなんか誰が何をするのかと言う事が明らかになり取り組みやすくなると思います。

2 点目は、いっぺんに色々なことは出来ないもので、地域づくりをする上でステップを踏んだ方が良いと思います。例えば 3 段階ぐらいステップを踏むとすると、人材育成など色々出てくると思うのですが、1 つ目のステップは地域の中の交流を再構築していくような活動をしたり、あるいは地域の人材が表に出られ

るようなものをつくるなど、つまり地域の個々の力を高めていくということですね。2つ目のステップは、ネットワークを作っていく人が地域の中にいるということ。地域の中でそれぞれが情報不足だったりして、どんな活動をしているのか分からないというのがあると思うので、そういった意味でなかなかつながりにくい。それぞれの団体が力を入れて活動していることが分からないと思うので、そういったネットワークのところをどうするかということ。3つ目のステップは協働・共助と言うことで、団体と個人がどう連携しながら共助していくか、協働していくか、課題解決を図っていくかこういったステップを踏んでいく事が必要なかなと思っています。

3点目は、私の意見書に丸で3点書いてありますが、1つ目は公民館を中心とした協議システムの構築、これは情報をどう共有していくかということで、2つ目は公民館をステーションにとありますが、これは場所と言うか機能と言いますか、活性化する機能・中心となる場所というところで、3つ目は人材のことで、人材育成をどうしていくか、地元に関してどうしていくかなどははっきりしていると具体的な施策ができるのではないかと思います。

最後に4点目は、先程少子高齢化の話もありましたが「人生100年プラン」というのが内閣府から出ており、今の中学生の50%が105歳まで生きるという視点を持つておく必要があるようです。今までは学校を卒業して定年を迎えるという1本だった流れが、仕事をしながらボランティアをしたり、働きながら第2の仕事を持っていたり、あるいはボランティアに生きがいを求めながら仕事と両立していくなど、非常にマルチな生き方になってくると思います。そんな風に人生100年となってくると、定年してからが非常に長いですから、生き方も地域にどう貢献していくかという事も大事な部分になりますから、そういった視点も1つ持つておくべきかなと思います。今までの一貫した1本の流れというよりも多様な流れがあり、その生き方の流れを踏まえて地域の活性化をしていくという視点の中に加えるといいのかなと思います。またコミュニティスクールについては、学校も一つの大きな地域を活性化する上での場所になりうるのかなと思っています。学校という施設がその場所だけでも地域の人が集えるような場所となりうると思うし、公民館的な活動が出来る場所にもなると思うし、色々なことが出来ると思っています。

委員 G さん：先程委員 F さんがお話しましたが、まず初めに地域コミュニティが活性化された状態とはどんな状態を言うのかということをおさえて、そこを目指してどういう提言ができるのかというのが大事かなと思います。コミュニティスクールの立場と書いてありますが、学校という立場にしても、地域住民という立場にしても、1つ目は地域で顔が見える・分かるということ、2つ目は色々な立場や世代があると思うがその活動が分かること、3つ目として色々な世代や立場の人

達が集えること、この3つの機会を提供していくことが大事だと思います。コミュニティスクールの立場から言うと、学校には色々な地域の方や色々な世代や立場の方に入ってきていただいているが、地域とすると学校を核とした地域づくりにつながっていないと半分しか目標は達成してないということになり、これからはそれが必要なんだと思います。学校とすると、子どもが地域に出ていく仕掛けづくりが必要だと思いますし、ちなみに中学校の職場体験学習の中で地域に出て行ってボランティア活動をするようなことも企画されていますが、ただコロナの状況もあるので、昨年度・今年となかなか地域に出て行くには至ってないですが中学校教育ではそのようなこともしています。そういったことも一つ大事なのかなと思っています。意見書の中で、学校と地域がお互いにWIN-WINな関係になればとお話したかと思いますが、そういった中で特に子どもが実際に地域に出ていく機会を作るのが大事なかなと思います。あとコミュニティスクールは学校教育課で主に進めているが、高崎市では生涯学習課が広報の原案をやっていたりするのですが、地域づくり課は行政の立場で、学校教育課と生涯学習課は教育委員会なので、どうしても縦割りになりがちなので、横のつながりというか…色々な課を超越した大きくくりで考えられればいいと思います。そういった様々な世代や立場の人達も顔が分かる・活動が分かる機会が必要で、コミュニティスクールで学校に色々な立場や世代の人達が登録してもらっているが、そのボランティアの集いの中でそれぞれの活動を紹介しているが、そのような機会を藤岡市全体、地域全体、公民館単位で持てればよいと思います。また小学校の近くに公民館があるので、公民館の主事さんと相談して公民館の事業の一部を小学校の施設を使って下さいということで幾つかプランを立てました。コロナの状況もあってなかなか実現しなかったが、施設を使うことで自然と交流が図れると思います。また、自分が研修員という立場で群馬県の総合教育センターでお世話になった時に群馬県の知事さんや教育長さんと直接話をする機会が設けられたことがあったので、市長さんや教育長さんがラフな状態で気軽に教員や一般市民が話を聞けるような、直接話を聞くような懇話会とか座談会のような機会があってもいいのかなと思いますし、公民館で地域ごとに座談会をしても面白いと思います。

熊倉会長：先程公民館の職員はというお話もありましたが、学校の教職員は地域にどう出ていくかという視点も是非併せて考えていただければと思います。

委員 H さん：人の側面についてお話を書かせていただきましたが、色々なアイデアとかこうしたらいいとかこうすべきだという先行事例も沢山出てくるとは思います、結局は誰がやるの？というところにつながると思うんですね。誰かやる人が現れて人がつながっていけば先行事例になりうると思うので、人というところが大事になってくるとは思います。その点から言うと行政の役割というところで、よ

く補助金やお金の話になりやすいのですが、市役所の職員が地域に出ていくという意味では、PTA の活動は比較的入口になりやすいので、子ども会の役員もそうですが子どもを通じて地域デビューを果たすことをもっと応援してもらっていいのかなと思います。現に私もそうですが公務員が役員を引き受ける例は多いのですが、引き受けることを変人扱いしないというか、公務員の調整力や書類をコンパクトにまとめたり集計する能力というのは地域活動にとって大変大きな役割を持つと思うので、なかなか地域に飛び出すというとなんか言われるのではないかなというのがあると思うのですが、意外にそんな事はなくて、市民は役所の人を目の敵にするとか文句を言ってやろうと言うふうには思わないので、ぜひ市役所の職員に地域へ飛び出していただきたいなと思います。また私が公務員として地域に入っていくと、「(何でこんなにいいことをしているのに) 補助金くれないの?」と言われるのですが、いい事をしているんだから役所が応援してくれて当たり前だということだと思うが、やはり役所と市民との間で対話できていない、お互いの思いが理解できていないというところがすごくあるのかなと思いました。きっかけとして子どもの PTA や子ども会を通じて公務員が地域に出て行くということをもっとしていいのかなと思います。

熊倉会長：公務員もそうですが、通常の企業の従業員も、OB になる前に地域活動に参加できるように各企業が考えられるともっと地域とつながりができるのでしょうかね。

委員 I さん：ほとんどの地域に関して対話・コミュニティが大事で、それをどういうふうにしようかと考えながらやっていかないとどうにもならないと思うので、各地区のイベントとかの情報も入れて自由にそこに出入りできるような体制にしたいというのが自分の考えです。各地区に市役所の職員の方々がいると思うので、そこで協力をしてもらったりだとか、あとは各企業に対して協力をしてもらいたいのですが働き方改革でなかなか協力はできないです、という面も結構あったので、それをどういうふうに話をしていったらいいのかなと思います。

熊倉会長：働き方改革でというのは？

委員 I さん：例えば土曜日など今までずっと協賛してくれていたところが、ボランティアとしてではなく会社としてやってくれていたみたいで、働き方改革で土曜日は一切出られませんということになってしまった。ボランティアでどうにかできないか話をしてみましたが、ちょっとそれは無理ですとはっきり断られてしまったということがありました。

委員 J さん：自分自身の今までの活動を振り返ってみて、地域と言った時にどの範囲を地域と言うのかというのがなかなか難しいというのがありまして、そうすると公民館・地区単位で考えた方がいい課題と、それかもう少し細かくして取り組んだ方が進めやすい課題とどうしても分かれてしまうので、細かいところで出た課題を広げていった方がいいよね、というところを公民館単位でやっていけば良い

のかなと思います。いきなり公民館単位という話になると、神流地区で言えば 8,000 人前後の人口がいますと思いますが、8,000 人の人をいきなり最初から相手にするというのは厳しいのかなと思ったので、私は区単位、区長さん単位ということで考えてみました。そうするとまずは人と言う話になり、選ばれた委員さんが何かやっているらしいと言うのではなくて、地域全体の人が「何で今地域コミュニティ活性化に取り組む必要があるのか？」ということを経験していただければいいというふうに思います。言葉は色々な伝え方があると思いますが、それをきちんと伝えてみんなで問題を共有し、そうすると次にどうしようかというふうになっていくと思いますが、意見書に 3 つ書かせていただいた通り 1 つ目は何で活性化が必要なのかということ、あるいはこういうことのためにやるんだというのをみんなで共有することで、そういうことのために取り組むんだというのを共有することが大事だと思います。日常生活の簡単な協働作業を通して理解・信頼関係を築き、自分達の住んでいる地域を自分達の力でより住み良くしていくんだというふうに思わないといけないのではないかと思います。

次に目標を共有したら、そのためにみんなでどうしたらいいのかということを経験していただくのがポイントだと思いますが、今ほとんどの所で既存のコミュニティがあるが、それだけではカバーしきれない部分がありますから、既存のコミュニティ、それ以外の人達をなるべく多くの人、もちろん現役世代、学生さん、子ども、そういった人達が集まってもいいのではないかと思います。各世代にわたって集まるというのはなかなかないと思いますがそういう人達に集まってもらって、そういうことをやってもいいんじゃないかと思います。

そして共通の必要性を感じた中で「じゃあこの地区で欠けていることは何だろう、もっとよくするために取り組んでいくことは何だろう」ということをみんなで共有していく、そうすればあとは自動的に進んでいくと思います。立ち上がったならそれを継続する、水平展開するというのはその後の課題だと思いますので、まずはそんなことで進めていけばいいのかなと思います。

熊倉会長：おっしゃる通りで、委員Fさんと共通する部分がありまして、地域やコミュニティと言うのはある限定ではなくて、ある場合には公民館単位にもなるし地区単位にもなるし、ある場合には公会堂単位にもなるし、そこでみんなが暮らし続けていくためにはみんなで話し合ったり共有しなきゃならないという感覚がみなさんどうやったら生まれてくるのか、そうなるには時間がかかるし、最初はエネルギーも必要となりますが、ある一人だけではなくて多様な人の中から少しずつ現れてくると次のステップに行くのかなと思います。そのためにどうするのか、ということですね。

委員Kさん：社会福祉協議会は地域福祉を推進するための事業や運営を行っており、数多く

の事業を藤岡市から請け負っております。地域支え合い協議体に関しましても藤岡市から委託されており、高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていけるような仕組み作りを目指して、市内 8 か所、公民館単位で活動を行っております。困り事を検討する等仕組み作りについて定期的に話し合いを行っております。構成メンバーとしましては、区長さんや民生委員さん、婦人会の方、ボランティアの方、地域の交番の方など様々な委員のもと話し合いを行っております。地域住民に対しましても定期的にアンケートを実施したり、各地区でたより等の発行を行って活動の内容やどういう方が携わっているのかという紹介を入れたたよりを配っています。そういったことと同時に、地域の困り事に対する担い手の募集もあわせて行っています。例えばゴミ出しが出来ないような方がいたとしたら手助けになる方法を考えたりだとか、どういう方に担い手として手伝ってもらうかだとか、そういうことを「ご近所だより」を定期的に発行して地域の中で検討をしていくということを行っております。もう一つミニデイサービスについてですが、藤岡市の方から委託され運営しており、市内 68 か所で公民館・公会堂等を使わせていただいております。公会堂等につきましては地元の区長さんと連携を取りまして、前日に鍵を預かりどういう方が来ていただくのかということを経理さんと連携を取りながら事業を運営しております。先程 300 円と言う費用のお話が出ましたが、確かにお茶代も含まれますが、来ていただくまでの間に何か事故等があった場合に対応できるような保険への加入と、またはお年寄りの方は手作り品を楽しみに来られている方もいらっしゃいますので、手作り品を作る材料代も含め 300 円がかかるということでお金を預かり運営しております。介護予防を目的とした事業でありますので、気軽に来ていただくことを考え、「地域の方が来ているので私も参加したい」という方には一緒に来ていただき、1 回目は見学と言う形で行い、その後続けて利用したいということであれば申請をしていただき、緊急連絡先などを確認してご家族の了解を得て参加できるような仕組みを取って事業の運営を行っております。最初の話に戻りますが、地域支え合い協議体の中でも居場所作りを地域の中で考えて、地域の中で立ち上げて、そういった支援を協議体の事務局として行っています。立ち上げに対する助成金もありますので、市民の方に周知することにつきましては社会福祉協議会だよりもありますので、そういったもので運営に対する周知を行っていききたいと思います。ただコロナ禍で支え合い協議体の会議やミニデイサービス等は休止状態となっておりますが、再開に向けて準備を行ったりしております。皆さんのお話を聞きまして、社会福祉協議会としては地域福祉を推進する事業を行っていく中で、皆さんからのご意見を参考に事業を進めていきたいと思っています。

委員 L さん：藤岡市のボランティアは一人暮らしの方への老人給食が目玉の活動となりますが、(コロナ禍の)この時期でするのでそれが出来ず、皆さんきつと落ち込んで

んじゃないかと大変心配しております。

前にもお話ししましたが、会員の方は皆さん高齢になりましたし、新しい方はなかなか入らないということで、こちらから「こういう活動をしています、こういうことをするので皆さん一度試してみませんか」というのを色々と発信していかなければいけないのではないかと思います。それから連絡協議会に入っていないボランティアの方は沢山いらっしゃるのですが、そういった個々で活動されている方が横につながって、お互いに出来ないことを助け合うとか補充したりと言うような横の連絡ができればいいのかなと思います。私は婦人会にも入っているのですが、敬老の日のお祝いと言うことで婦人会で 80 歳以上の方にお祝いをお届けしたのですが、婦人会だけだと(80 歳以上の方を)全員把握出来ないんですね。民生委員さんや区長さんにこちらから聞けばいいのかもしれませんが、教えていただければもっと皆さんに欠けることなくお渡しできると思うので、もっと横のつながりもコミュニケーションをとっていかないとなかなか難しいのかなと言うのを改めて感じました。

熊倉会長：民生児童委員さんも持っている名簿をなかなか公にできない難しい面もおありで、個の問題とか個人情報の問題とかありますが、みなさんが参加できるような仕組みが出来ていくといいですね。

委員Mさん：会議の方向性と言うか、各委員さんの感想を聞いていると概ね核が出来ているのかなと思いますが、これを今後どう市民に伝えて理解してもらえうかということ、そこに市としてどういう自立支援を継続していくのかというところが課題なのかなと感じました。

熊倉会長：県として、県内に色々な市町村がコミュニティ振興に対して取り組んでいる状況がお分かりだったら皆さんにお話しいただければと思います。

コミュニティセンターへ一番早く変えたのは太田でしたね。渋川は公民館と行政区をもっと大切にしようと言う意見がかなり出て来ています。高崎の旧高崎市部分では 1 校区 1 公民館を推進、仕上げてきましたが、合併地域と歩調が合っておらず、色々な問題が生じているようです。先程の色々な世代が参加することについては、高崎市で長く区長会長をされていた松本源治さんという方が、各公民館で行う色々な事業に必ず 3 世代交流をかぶせて事業をやり続けていらっしやいました。

委員Nさん：藤岡市は平成 18 年に鬼石と合併して現在の藤岡市が成立したわけですが、8 地域がそれぞれ独立した行政事業を実施しています。当初の合併から 65 年以上が経過しておりますが、藤岡一色に染まっているようにも考えられますがまだまだ各地域でそれぞれの文化や考え方が残っております。他地域から引っ越してくる方も大変多くなっている中で、異なった文化や考え方が融合されている

ことも否めません。そのようなことで、十分な現状分析をしなければならないという気がいたします。先程委員の皆様から沢山意見が出されましたが、全員の方向がコミュニティの活性化は必要であるという認識を持っておられました。そしてアンケートから、8割の方が地域のつながり・コミュニティの活性化が必要であると思っておられるようです。そんな中で地域の活性化とともに、地域の「共助」を最終目的とすることが大いに必要だというふうに感じ取っております。先程災害の話が出てまいりましたが、訓練や意識向上を図るための努力をしながら、これらを公民館活動、コミュニティにつなげていければいいと思います。いずれにしても人を集める事が大変な時期でもあります。避難訓練や火災予防練習を区長会でも各地区で開催した方が良いのではないかとということで、先般小野小学校で避難訓練が大々的に開催されました。その後に私が各区長に対してこのような訓練を全地区でやって欲しいという話をさせていただきました。このようなことを通じて人を集められれば色々な人とのつながりが結ばれていくのではないかと気が致しますし、災害対策を通じて活性化につながれたら良いのではないかと思います。地域の捉え方、コミュニティ範囲の役割とありますが、私としては公民館単位を汎用性のある問題の解決と大きく捉えてもらい、行政区単位では区長会で細やかな問題の解決をしていければいいのかなというふうに思います。それから地域コミュニティに求められるものとして、先程皆さんから沢山の意見が出てまいりましたので、それらを取り入れながらしっかりした答申が出されれば素晴らしい会議になると思います。ある程度地域の色々な事情を、これからもっと個別に細かいアンケートを募集して、その結果を活かせれば、より一層コミュニティの活性化につながっていくのではないかなと思います。市民の声をできるだけ多く聞いてそれを反映すれば素晴らしい地域コミュニティの活性化につながっていくと思います。

熊倉会長：一巡をいたしました。皆様の意見を聞いて何か聞いておきたいことなどあるかと思しますので、委員Aさんはいかがですか？

委員Aさん：コミュニティスクールについて何人かの方々から意見が出されましたが、委員Gさんからもお話があったように子どもをいかに地域へ出していくかと言う視点が藤岡市には欠けているのかなと思います。学校に地域の力を集めようとしているのは一方向の活動で、子どもが地域へ出ていってどう評価されているかを確認するための評価する基準が設けられれば良いと思います。それからどうして人を集めていったらいいのかというところに結局最後は行き着くと思うのですが、例えば強盗に襲われた時に「助けて」と言っても誰も扉を閉ざして出て来てくれませんが、「火事だ」と言うとなんか出て来ます。これは「助けて」というのは自分の利益に関係ないが、「火事だ」というと自分の家が燃えるかもしれないので自分の利益に直結するため出てくるのです。義務感では動かないと

思います。それぞれがそこへ行くことで楽しい、自分のためになる、そういう気持ちを持たせるようなものでなければ人々を集めたり地域づくりに参加してもらうことは出来ないと思います。PTAや子ども会も参加すれば楽しいので、それに気付いてくれた人は来てくれる。そうでない人は、義務感だけで終わってしまう。基本的に「器」は重要ですが、要は「人」だということが基本にあります。同時に、「器」がなければ「人」が活躍する場がない、という相関関係があると思います。

委員Gさん：実は西中の校区のコミュニティスクールで3世代交流ということで、それぞれ地域・区単位でクリーン作戦を、最初は公民館を拠点として集まることを企画していたのですが、非常に距離が遠い方もいるので、区単位で公会堂だとかそういう拠点を作っていただいて三世代が交流するようなことをやろうと企画したのですが、コロナがあって頓挫していますがそういったことを試行的にやってみようということで動き出しています。

熊倉会長：その時に公民館などを情報の場として使っていただいて、各区にみんなが「なるほどな」と子ども達にも広がっていくような動きが出てくるといいですね。

委員Bさん：先程仕掛け作りとあったのですが、同じ事の繰り返しになってしまうのですが、いかに人を動かすかという時に委員Aさんからもありましたが、損か得かと言うところで人が動くと思うので、防災がいかに大切かと言うところで、また親が出ると子どもも出てくれると思うので、防災というところで他の人とつながっていけるということで、防災を起点に地域活性化の一助になるのかなと書かせていただきました。

委員Cさん：学校はお客さんが来てくれて、先生方は地域に出でいかずに仕事が出来てしまうので、世間知らずと言われてしまうことがある。我々が小中学生の頃は、地域の中学校と小学校が一緒になっていて、そこに公民館があり、そこで小さなまちづくりを行っていた。学校の近くで色々なことが行われていた。そういう中で公民館がだんだん離れてしまったというのがあるので、是非学校と公民館が連携していただき、生涯学習課もありますので、我々社会教育委員会で話をした中でも、いかに子ども達が地域に出でいくかというところを考えていただければと思います。

熊倉会長：是非先生方にも活動していただければと思いますので、よろしくお願い致します。皆様から色々な意見をいただきましたが、整理をさせていただいて最終校正に向けていこうと思います。多くの方々に分かっていただくには分厚い物よりもA4の1枚紙で「これが基本です」といったものをつくり、あとは添付資料として短くて分かりやすいものにしたいと思っております。

3.その他（司会：地域づくり課長）

※第 4 回懇話会の内容について事務局より説明

事務局：次回の会議につきましては、提言書の原案を事務局の方で作成し、それをたたき台として皆様に審議していただければと思います。今回までの会議の中で皆様から多くのご意見をいただきましたので、原案につきましてはご意見をまとめる形で作成したいと考えております。会議の前に事前に皆様にお送りしますので、会議前にお目通しいただければと思います。最終の第 5 回会議では提言書の最終確認をするような形で進めさせていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

4.閉会